

2月の大雪は記録的でした。金沢もひどかったですが、福井は56豪雪に匹敵するほどのことでした。しかし私は当時研修医の頃に京都にいましたので経験していません。それで、豪雪というと38豪雪を思い出します。2階の窓から外に出て、集団登校したこと、父のバイクが春になるまで雪の下に埋もれていたこと。今冬は降った雪が融けずにどんどん降り積もっていく状態を久しぶりに見ました。昔は軒先につららがあるのが当たり前でした。昭和38、56、平成30の積雪量を調べてみたら、金沢市、富山市、福井市の順に昭和38年は181cm・186・213、昭和56年は125・160・196、平成30年は87・84・147でした。あらためて昭和38年のすごさが分かりました。それと、福井は金沢や富山よりも豪雪地なのですね。暖冬に慣れていた私たちですが、雪の猛威が身にしみた今冬でした。桜の季節になっても大豆田の雪捨て場に雪の山が残っています。

[最近目立つ病気]

インフルエンザは、相変わらず流行中です。勢いは衰えましたが、A型、B型の混合流行が続いています。最近の傾向ではゴールドウィークあたりまで続く感じです。今シーズンの流行は長いのでA型に2度かかった方やAとBにかかった方が例年より多くみられます。

いろいろな感染症がみられています。溶連菌感染症、アデノウイルス感染症、とくに今年は流行性結膜炎（はやり目）が目立ちます。ヒトメタニューモウイルス感染症、RSウイルス感染症、胃腸炎（ロタウイルスもあり）、特定できないウイルス感染症（長引く風邪）もみられます。

感染症ではありませんが、急に暖かくなったので花粉症の方では一気に症状が悪化しました。

[ヒトメタニューモウイルス感染症]

乳幼児で咳がつづき息苦しう、熱が下がらないといった症状の場合、RSウイルスやヒトメタニューモウイルス感染症の可能性がありま

す。ヒトメタニューモウイルスは気管支炎、細気管支炎や肺炎などの呼吸器感染症をひきおこすウイルスです。1～3歳の幼児の間で流行することが多いですが、大人にも感染します。小児の呼吸器感染症の5～10%、大人の呼吸器感染症の2～4%は、ヒトメタニューモウイルスが原因だと考えられています。とくに乳幼児や高齢者では重症化することもあり、注意が必要です。

ヒトメタニューモウイルス感染症の主な症状は長引く咳、鼻汁、喘鳴、4～5日間つづく発熱で、RSウイルス感染症ととてもよく似ています。

ヒトメタニューモウイルスに感染しても、1週間程度で症状は治まってきます。しかし、1回の感染では免疫が獲得できません。何度か繰り返して感染してしましますが、年齢が上がるにつれて徐々に免疫が付き、症状が軽くなる傾向があります。これはRSウイルスと同じですがRSウイルスほど顕著ではありません。

ヒトメタニューモウイルスは、ウイルスの遺伝子も症状もRSウイルスに似ており、症状だけでは診断が付きません。ヒトメタニューモウ

イルスの迅速診断キットでは、鼻咽頭を細い綿棒でぬぐった後、5～15分程度で鑑別できます。

治療の基本は対症療法です。ヒトメタニューモウイルスだけに感染している場合、各症状を楽にするための対症療法を行います。水分をしっかりとり、温かくして、ゆっくりと休みましょう。症状がひどいときは、咳や鼻水を抑えたり、熱を下げるための薬を処方します。

ヒトメタニューモウイルスは、咳やくしゃみで吐き出されたウイルスが付いてしまったり（飛沫感染）、気がつかないうちにウイルスに触れてしまったり（接触感染）することで感染が広がります。保育園・幼稚園や小学校などでの集団感染に注意する必要がありますので、帰宅後に手洗い・うがいを徹底しましょう。また、家庭内でもご兄弟、ご両親、おじいちゃん・おばあちゃんに感染してしまうことがあります。感染が広がらないよう、マスクを着用する、タオルや食器を分けるなどの感染対策をしましょう。

(Meiji Seika ファルマ株式会社 <https://www.meiji-seika-pharma.co.jp/hmpv/>より引用、一部改変)



[診療報酬改訂]

4月から診療報酬の改定が行われました。主に病院や在宅医療、および介護関連に影響がありました。当院での主な影響は①薬の値段が下がったこと②抗菌剤（抗生剤）の適正な使用が評価されたこと③妊婦さんの診療が評価されたことの3点です。この内、②について説明します。

当院では以前から、抗生剤は本当に必要な時に処方するという考え方で診療してきました。そうしないと耐性菌が増加し、治療が難しくなることがあるからです。今回、基礎疾患の無い3歳未満の乳幼児に、不必要な抗生剤を処方しないことが評価されました。ただし、皆様の窓口負担金は従来どおりで変わりません。

抗生剤を出さないと判断したときの理由と対策は下記のとおりです。

- *いわゆる風邪の8～9割はウイルス感染です。
- *ウイルス性の場合には対症療法が中心です。完治までに時間がかかります。
- *ウイルスには抗菌薬は効果がありません。安静と休養が重要です。
- *抗菌薬の使用は腸内の善玉菌もやっつけてしまう可能性があります。そのため、下痢が長引くことになります。
- *嘔吐や下痢には、糖分・塩分の入った水分補給が重要です。
- *2次感染防止のため吐物や下痢便の処理に注意し、タオルを共有してはいけません。手洗いの徹底をしてください。



☆大手町の夜間急病診療所 (Tel:222-0099) では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は、4/2、5/24、6/10、7/19の予定です。なお、5月3日は当番医です。4月9日(月)からは名称が金沢広域急病センターとなり、場所は駅西福祉健康センター内となります。開始時刻は午後7時30分からです。電話番号は変わりません。お間違えなく。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン(おたふくかぜ・インフルエンザ・B型肝炎ワクチン)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆4月から診療報酬が改訂されたので窓口負担金が従来とは異なる方もいらっしゃると思います。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

